

夢あるまち みのり

— 人と人の繋がりを深める「ふるさとみのりづくり」 —

豊公民館

1 豊地区の概要

豊地区は、福井市の旧市街地南部に位置し、ほぼ中央に緑豊かな八幡山があり、自然環境に恵まれた地域である。古代から北陸道沿いに発展し、江戸時代は福井城下の玄関口として栄え、世直(よなお)神社境内には、京、江戸への街道の起点となる一里塚跡が残っている。



【一里塚跡】

フェニックス通りが南北に縦貫し、交通が至便で、JR 北陸本線、福井鉄道福武線、京福バスなどの公共交通が充実し、福井赤十字病院や大型商業施設、工場・事業所などの働く場、整備された住宅街などがあり、住みよい地域である。

また、豊かな歴史と文化を誇っている。足羽山・八幡山の多数の古墳をはじめ、柴田勝家亡き後に北の庄城主となった戦国武将堀秀政公の墓所や、花堂玉の江橋の松尾芭蕉「奥の細道句碑」、県内の古民家を移築した「おさごえ民家園」など、多数の史跡や寺社仏閣、国・県・市指定文化財がある。

平成30年9月1日現在、4,247世帯、人口10,490人となっている。高齢化率が31.75%で、福井市の人口1万人を超える地区のなかで最も高い。

2 ふるさとみのりづくり委員会と

「八幡山もえぎ祭り」

(1) ふるさとみのりづくり委員会の活動

住民同士の繋がりを深め、新しく来られた人たちにもふるさとに誇りと愛着をもってもらおうと、昭和63年から「ふるさとみのりづくり」運動が始まった。これを具現化するために、各種団体の代表者が集まって、ふるさとみのりづくり委員会が結成された。

現在、自治会連合会、地区社協、体育振興会、教育振興会、壮年会など25団体が加入し、委員数43名で運営されている。豊公民館を活動拠点に参加団体がそ

れぞれ役割を担い合って、敬老会や区民体育大会、木田神社子ども相撲大会などの地区事業や、緑豊かな豊地区の特色を活かした「八幡山もえぎ祭り」を実施し、まちづくりと住民相互の交流促進を図っている。

(2) 人と人の繋がりを育む「八幡山もえぎ祭り」

平成元年から始まった「八幡山もえぎ祭り」は、新緑の季節に八幡山のふもとのカルチャーパークで開催される。餅つき大会では、もち米6俵(360kg)のよもぎ餅が作られる。

よもぎ若葉を使った餅は評判でテントの前に長蛇の列ができる。このほか多数の模擬店が出店し、消防音楽隊ドリル演奏、子ども太鼓、ヨサコイなどが披露される。民踊大会では、住民自らが作詞・作曲した「みのりよいとこ」が踊られ、住民総出で春の



【餅つき大会】

到来を終日楽しむ。



【中学生のボランティア】

「八幡山もえぎ祭り」は、ふるさとみのりづくり委員会の各種団体が連携し、300名以上のスタッフが役割を分担し合って実施される。長い時間をかけての準備や多くの人手と労力が、人材発掘や三世代交流の場となり、人と人の繋がりを育み、深めている。

3 語り継ぐ「平成16年福井豪雨」

(1) 豊地区が泥海になった福井豪雨

平成16年7月18日(日)未明から昼前まで、足羽川流域に集中して猛烈な雨が降った。午後から、春日1丁目の足羽川左岸堤防が決壊したため豊地区に濁流が流れ込み、2,416世帯が床上・床下浸水し、地区の大半が泥海になる甚大な被害を受けた。

復旧にあたっては、豊公民館が水害ボランティアの活動拠点となった。県内外から大勢の人々が応援に駆けつけ、真夏の炎天下、家屋の泥出しなどを頑張っていたことに、地区住民はいつまでも感謝している。



【水没した豊地区：福井新聞社提供】

福井豪雨で、豊地区では死者や重傷者の人的被害が一人もなく、全住民が安全な場所に避難でき、安否確認も円滑に行われた。これは、自治会はじめ民生・児童委員、地区社協、消防団などが助け合った成果で、ふるさとみのりづくり委員会の協働のまちづくり活動が、福井豪雨の災害時での「共助」につながったと言える。

(2) 福井豪雨の記憶を風化させないために

豊地区では、福井豪雨の記憶を風化させず、後世に語り継ぐための様々な取組を実施している。

平成 26 年度は、福井豪雨 10 周年記念事業を実施した。記録 DVD を制作し、福井豪雨について学ぶ豊小学校全校集会を開催した。豊公民館では、防災講演と記録 DVD 上映会、福井豪雨写真パネル展を開催し、また、木田地区との災害時の相互支援協定を締結した。平成

27 年度は、日赤合同災害訓練で大規模災害時でのトリアージの診察・治療を体験、炊き出し訓練を行った。



【日赤合同災害訓練】

平成 28 年度からは、

毎年、防災啓発事業「みのりのあかり」で、防災講演会と合わせて、豊公民館での豊小学校児童の飾り付けによるイルミネーションや LED 電飾を実施している。

4 豊生涯学習センター

幼児から高齢者まで気軽に公民館で学ぶことを目的に昭和 63 年に立ち上げ、年々内容を充実させ、現

在も活発な活動が続けられている。

本年度は、学校や家庭では体験できないことを学ぶ少年教育事業の「タイケン隊」、親と子のふれあいを深める家庭教育事業の「ふれあいサロン」、高齢者教育としての健康長寿事業「豊大学」では、それぞれ、時宜を得た関心の深いテーマで学級を実施している。



【豊大学：県教育博物館で豊小学校の資料見学】

加えて、ふるさととの歴史を学ぶ福井学基礎事業の「ふるさとみのり塾」、子育て支援事業の「キッズルームみのり」や、はつらつ伝承塾事業の「伝承料理教室」、放課後子ども教室の「将棋教室」と「けん玉教室」などが行われている。

また、21 グループと 1 サークルの自主学習グループがあり、公民館利用者が自主的に講座を運営し、地域の文化向上に寄与している。

5 終わりに

昭和 63 年から「ふるさとみのりづくり」運動が始まり、八幡山もえぎ祭りや木田神社子ども相撲大会など、地区を活性化する事業が始められた。以来、連続と続けられ、今では、豊地区恒例の催事として根付いている。現在、これらの行事が始まった頃に参加した子どもたちが、30 代、40 代となり、運営の重要な担い手となっている。

数年前からは、明倫中学校生徒や豊小学校児童が、ボランティアとして積極的に参加し、よもぎ餅作りをはじめいろいろな場面で活躍している。

ふるさとみのりづくり委員会の活動は、これからも次の世代に受け継がれ、「夢あるまち みのり」のまちづくりに貢献していくものと期待される。

豊公民館を活動拠点としたふるさとみのりづくり委員会による「ふるさとみのりづくり」運動が始まって 30 年。まちづくりへの思いが次の世代にうまく受け継がれ、災害時の「共助」にも活かされています。

豊公民館が、学びの場、ふれあいの場として豊生涯学習センターを充実させながら、人と人との繋がりを深めていく大きな役割を担っていることを感じました。